

2025年度つくば国際大学高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>1 自分を生かし、「社会の役に立つ人材」を育成する学校</p> <p>2 厳しい時代を生き抜くための「生きる力」を身に付けられる学校</p> <p>3 地域に根差し、地域に信頼され愛される学校</p>
重点項目	重点目標
1 キャリア教育の充実	生徒一人ひとりの夢を育み、必要とする能力や態度の育成を努めるとともに、併設大学・短大との連携を強化する。
2 確かな学力の向上	基礎・基本を重視しながら主体的、協働的でコミュニケーションな学びを通じた確かな学力の向上を図る。
3 ICT教育の推進	急速に進展する情報化社会に対応できる能力や態度を育み、主体的に活躍できる情報活用能力の向上を図る。
4 ソフトスキルの向上	あらゆる機会を通して社会性やコミュニケーション力、自制心、課題発見・解決能力、創造力などの育成を図る。
5 地域貢献活動の推進	地域社会への貢献を通して他者に対する思い遣りの心を持ち、明るい社会の構成員としての自覚や自己肯定感を育む。
6 働き方改革の推進	仕事と生活の調和による心身共に健全な就労環境や教育力の質の向上を目指し、働き方の見直しを進める。
7 入学志願者増への取組	地域社会から信頼され魅力ある学校を目指し、効果的な方策を考え積極的に取り入れるとともに、諸活動を外部に周知して見える化を進め、開かれた学校づくりを推進する。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
教務部	1 授業時間の確保と規律ある授業実施の徹底を図る。	・チャイムで授業開始・終了を徹底する。 ・生徒が節度ある態度で授業に参加できるよう、授業担当者と担任・学年担当者の連携を徹底する。	A	A
	2 授業力の向上を図る。	・基礎・基本を重視し、生徒が主体的に取り組む授業展開を構築する。 ・生徒端末を活用した教科指導や授業展開の研修等を行う。	A	
	3 適正な評価を行う。	・教科ごとに作成した評価規準による評価を行い、必要に応じた評価規準や評価方法の見直しをする。	A	
	4 PDCAサイクルを確立し、自己管理能力の育成・向上を図る。	・NOLTY スコラ手帳の活用を通じて、生徒がより良い生活習慣を確立し、希望進路実現に向けた行動をとるよう促す。	A	
	5 アドバンススクールの持続的な取り組みに必要な方策を検討し、実施する。	・エリア設定科目、ベーシック、キャリアデザイン等、アドバンススクールの核となる科目を継続的に行うために必要な指導内容や実施方法の修正・改善を図る。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
図書情報部	1 資料、業務、ルールなど情報整理と共有化をはかる	・スタッフの移動があった。年度末・始の業務について図書情報部内情報で共有し業務が滞らないよう情報を整理する。従来のICT機器の利用や校内ネットワーク利用について現状把握をし現状にあった機器の利用やネットワークの利用に向けて検討する。	B	B
	2 図書室の情報化をはかり利用者を増やす	・昨年度、図書システムを導入した。図書システムの活用状況を観察する。活用状況を踏まえシステムの適切な運用に向けて検討する。	A	
	3 職員の業務、生徒の学習にICT機器を活用できる環境を整備する	・現在のICT機器の活用状況について情報収集・整理をおこなう。必要に応じて環境整備について検討する。	C	
	4 ICT活用するための教員のスキル向上をはかる	・アプリケーションの授業での活用方法についてレクチャーする機会を設ける。	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
進路指導部	1 学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課外授業の実施 ・ 外部コンテンツを利用したアダプティブラーニングの推進 ・ 基礎力診断テストの数値の意識づけ 	B	B
	2 進路情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ HP または Classi で生徒、保護者向けに進路情報を発信する ・ 生徒への大学ツアーなどの企画 	B	
	3 教員間の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部コンテンツの有用化を図る ・ ハイスクールオンラインの使用の周知 ・ 入試説明会などの情報のオンライン化 	B	
	4 高大連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高大連携の授業内容を、中学校などに広めることで、医療系に関心のある受験生確保の一助とする ・ メディカルエリアの授業などを通して高大連携をさらに強化し、併設大学・短期大学への進学者数を増やす ・ 授業以外（ボランティアや学園祭など）での交流を増やす 	B	
	5 キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間形成能力を育成させるため、キャリアデザイン等の授業でエンカウターの授業を実施する ・ 将来設計能力を身に付けるため、早期からの将来の目標設定や進路設計などに取り組みさせる ・ 働くことの意義を理解させ、様々な情報を取捨選択・活用しながら、主体的に判断しキャリアを形成する力を身に付けさせる 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
生徒指導部	1 基本的生活習慣の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の登下校指導を実施する。 ・「正しく制服を着る」事への意識づけの為の声掛けをする。 	B	B
	2 喫煙の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・校内・校外の見回りを頻繁に行い喫煙を予防する。 ・土浦保健所から講師を招聘し講話を行い、煙草が与える体への影響等について煙草に関する正しい知識を身に付けさせる。 	B	
	3 いじめの防止	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で「絶対にいじめは容認されない」という態度を明確にする。 ・年3回（6月・11月・2月）の学校生活に関する調査（いじめ状況確認調査）を行い、早期発見早期対応に努める。 ・外部講師を招聘し生徒及び教員それぞれに向けての講話を行い、いじめに対しての知識を深める。 	A	
	4 危機管理能力の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘し講話を行い、スマートフォン等の適切な利用方法と、SNS利用時の危険性について理解させる。 ・講話等で得た知識を、学年集会やHR活動で活用していけるよう学年に呼びかける。 	B	
	5 薬物乱用の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘し講話を行い、薬物乱用が身近なところで起きている状況を認識させる。 ・講話等で得た知識を、学年集会やHR活動で活用していけるよう学年に呼びかける。 	B	
	6 交通事故の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・土浦警察署交通課から講師を招聘し、地域の現状の把握と交通ルールとマナーの遵守の重要性を説き、無事故で生活できる態度を身につけさせる。 ・通学路指導等を実施し、交通ルール・マナーの遵守を徹底させる。 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
教育相談部	1 教育相談の円滑な運営と、生徒が健全で有意義な学校生活を送るための支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の持つ特性への理解を心掛けるとともに、思春期の子どもの心の変化や悩みに寄り添う。 ・担任、学年、保護者やカウンセラーとの連携を図り、生徒が抱える悩みや困難を解決するための援助を行う。 ・保護者とも情報を共有し、より一層連携を深める。 	A	A
	2 教員の教育相談能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のカウンセリングマインドの向上と教育相談に関する知識を高めるために、具体的な事例の研究を目的とした職員研修を企画する。 	A	
	3 教育相談室を利用する生徒への学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 教科担当や担任と連携をとりながら、相談室利用の生徒の授業の遅れを補うべく、課題などの提供をするなど、学習の支援をする。 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
特別活動部	1 様々な学校、クラス活動を通して、コミュニケーション能力の向上を目指す。また、自主性・社会性の育成や集団の中での責任感や連帯感の涵養を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の組織編成を工夫し、生徒同士がかかわりを持つことのできる運営を実施する。また、互いを尊重しながら、より良い企画の実現を目指して、意見交換等を積極的に行うなどの機会を作る。 	A	B
	2 委員会活動を活性化し、生徒主体の活動を通して、自主的・実践的な態度の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会活動が活動予定及び運営要領を策定し、生徒が中心となり主体的に取り組めるようにする。 	B	

	3 部活動の活性化により、明るく活動的な学校生活の実現を目指す。	・部活動を通して、心身を鍛え協調性を育み、明るく健康的な学校生活を送り、同じ目標を持つ活動の中で、クラス活動とは異なる、より豊かな人間関係を育成する。	B	
	4 地域貢献活動を通して、奉仕の精神の涵養、社会性の向上、達成感の醸成を目指す。	・清掃・美化活動の実践と活動の活発化。また、地域行事やボランティア活動への積極的な参加による体験活動の推進。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
渉外部	1 保護者と教職員が連携し、信頼される学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会などPTA関連行事の活性化を図るとともに、保護者に対して教育活動について理解と協力を求める。 ・学校公開など他分掌と連携を図り、保護者がより参加しやすい計画を立てる。 ・広報誌「白梅」が学校-家庭を結ぶパイプ役としての役割を果たし、教育活動について理解を図る。 	B	B
	2 PTA活動の推進に努める。	・早めの連絡や日頃からの学校教育の理解を図り、PTA総会や評議員会への参加率を上げ、活動の活性化を図る。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
保健厚生部	1 校舎及び敷地内において効果的な清掃を行ない、生活環境の美化向上を図る。また、美化委員の活動の活性化を図り、学校行事での清掃活動などに取組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの落ちていない清浄な環境をつくるため、教室及び分担区の清掃を責任をもって行うなど、生活環境の美化に積極的に取り組む。 ・美化委員などの協力を得て、学校生活に関わる環境の美化を図る。 	B	B

	2 地震及び火災などの災害対策について、生徒並びに教職員の防災意識を高める。	・防災避難訓練を通して、自身の安全確保の方法や、避難経路を把握することで、万が一の災害時においても可能な限り害を被らないよう日常的な意識の高揚を図る。	B	
	3 奨学金（奨学生制度）について、適切な利用ができるよう、生徒及び保護者に周知徹底することで、生徒の進学機会創出の一助とする。	・奨学金制度の案内を漏れなく生徒・保護者に伝え、提出書類の期限等を厳守させるなど、必要な手続きを遅滞なく行なえるよう指導する。 ・適宜説明会を行い、本人・保護者の制度に対する理解を深めさせ、適切な利用ができるよう促す。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
第1学年	1 キャリア教育の充実 ・ノルティースコラ手帳 ・キャリア I ・フレッシュヤーズキャンプ ・進路ガイダンス ・インターンシップ	○ノルティースコラ手帳を活用することで自己管理能力の育成を図る。 ○キャリア I、進路ガイダンス、インターンシップを通して自己理解を深め、上級学校や職業についての興味や適性を知る。	A	B
	2 確かな学力の向上 ・授業内容の工夫 ・習熟度授業（数学・英語） ・少人数制授業 ・ベーシック I ・資格取得 ・学習習慣の確立 ・Classi 課題配信	○ベーシック I、習熟度授業の展開により、躰きの発見や学び直しに取り組むことで基礎学力の向上を目指す。 ○20名以下の少人数制授業を展開することで、きめ細かい指導を心掛ける。 ○定期的に Classi を活用し、課題配信をすることで、家庭学習習慣の確立を図る。	B	

	3 ICT教育の推進 ・Classi の活用	○ベーシック I ではマナトレを採用し授業を展開する。 ○基礎力診断テストなどの事前・事後指導としての活用。 ○生徒カルテなど教員間での情報共有。	B	
	4 ソフトスキルの向上 ・フレッシュャーズキャンプ ・学校行事への積極的参加	○フレッシュャーズキャンプにおける研修を通し、コミュニケーション力や良好な人間関係の基礎を育む。 ○学校行事などに積極的な参加を促し、他者との関わりを大切にする。	B	
	5 地域貢献活動の推進 ・委員会活動 ・部活動 ・ボランティア活動	○生徒会、部活動、ボランティア活動などを通し、地域との関わりの中で社会性、マナー、規範意識の向上を目指す。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
第2学年	1 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の各事項を通して生徒の自己理解を深めさせつつ、希望する進路を明確（進学/就職）にさせる。 ノルティール手帳 キャリアデザイン 二者面談(三者面談) 進路ガイダンス 進路達成プログラム インターンシップ（就職志望者）他 ※進路学習ノートの活用 ※生徒に関する情報は「生徒カルテ」で管理及び共通理解を図る。 	A	B
	2 確かな学力の向上 (= 3 ICT教育の推進)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テスト ベーシック等を通して基礎力診断テスト対策（web テスト配信）を行い、基礎学力の向上を図る。 ・キャリアナビ ベーシック等を通して社会への興味関心を向上させつつ、進路における時事対策を図る。 	B	

		<ul style="list-style-type: none"> ・リテラス 昨年度の反省を活かし、早い段階から試験対策に取り組み、昨年以上の合格率を目指す。 [特別進学コースの確立] 各模擬試験対策や課外授業などを行い、生徒の学力向上を図る。 		
	4 ソフトスキルの向上 学年目標 「怒」「耳順」「感謝」	<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会や学校行事を通して常に生徒に学年目標を働きかけ、心の成長を図る。 ・修学旅行の準備（調べ学習）から協働を行い、友人関係を深める。 	B	
	5 地域貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学年目標である「怒」さらにニュースピックアップ等を通して生徒自身に「思いやり」と「社会への関心」を向上させる。その上でボランティア活動への参加を促す。 	C	
	7 入学志願者増への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の通り、第2学年の活動実績を残し、入試広報に貢献する。 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	
第3学年	1 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、LHR などを通じ、進路目標達成のための道筋を明確にする。 ・キャリアデザインの授業を通じ、進路実現についての具体的な方法などを学び、目標を達成することができるスキルを身に付けさせる。 	A	A
	2 ソフトスキルの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性やコミュニケーション力、自制心、課題発見・解決能力、創造力などの育成を図るために、教員と生徒が同じ目線でスクラムを組んでいく必要がある。 	A	
	3 地域貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員としての意識【評価は自分がするものではなく周りがするもの】をしっかり持つ。一人ひとりがお互いに尊重し人と接することが必要。地域のよい評価が生徒数増につながっていく。教員が手本を示す。 	A	

	4 働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事量の偏りをなくすため、所属する校務分掌をベースに係分担表を作成し、完全分担制を目指す。 ・報告、連絡、相談を密にし、一人ひとりがお互いの状況を把握する。 ・助け合いを第一に。困っている教員や、忙しい教員など学年の先生一人ひとりがお互いに声を掛け合い、助け合いOUR TEAMとなる。 	A	
	5 入学志願者増への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・つくば国際大学高等学校の生徒としてのプライドを持たせることが大切。学年の指針にある【品位】【情熱】【結束】【規律】【尊重】をまず教員が理解し生徒の手本となることが必要。我々が本校の教員としてのプライドを持ち、本校と本校生徒を愛することが一番重要である。 	A	